石油化学工業協会

２０２６年１０月実績概要（メモ）

（２０２６．１１．１９）

各誘導品類の生産は定修等の関係から疎らとなるも、前月に対して増産品目が多めとなる。

１．生　産　動　向

イ）エチレン　４１３，０００トン

前　月　比　　＋１１．２％（＋　４１，７００トン）
前年同月比　　▲　８．７％（▲　３９，２００トン）

生産増減に係る諸要因	＜前　月　比＞	＜前年同月比＞
日数増減	＋　３．３　％	－
定修要因等	＋　５．７　％	▲　２．５　％
能力増減	－	－
稼働率変動	＋　２．２　％	▲　６．２　％
生産増減率	＋１１．２　％	▲　８．７　％

稼働プラントの実質稼働率試算：前月７０．１%* → 当月７１．５％ ← 前年同月７６．２％
定修プラント：前月　１社１プラント　→ 当月　なし　← 前年同月　なし
２０２６年１～１０月累計生産量　３，４８６．５ 千ﾄﾝ、前年同期比▲１７．６％

ロ）主な石油化学製品
前月比は、日数増加に加えて、定修規模差や稼働率要因から HDPE、SM、MMA モノマー、AN、トルエン、キシレンなど１１品目がプラス。PS、SBR、BR などの６品目はマイナスとなった。
前年比は、主に稼働率要因から、LDPE、PP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、SBR、キシレンなどの１３品目がマイナス。HDPE、MMA モノマーなどの４品目はプラスとなった。

２．樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ）生　　産
前月比は、日数増加があるものの LDPE、PP、PS は定修規模差もありマイナス。HDPE は主に稼働率要因からプラスとなった。
前年比は、LDPE、PS は定修規模差、PP は稼働率要因からそれぞれマイナス。HDPE は定修規模差等からプラスとなった。

ロ）国内出荷
消費マインドは、物価上昇が見込まれている中、基調としては持ち直しが続いている。生産活動も前月までは一進一退の状況が続いてきたが、１０月の予測では、電子部品・ディバイス、生産用機械、電気・情報通信機械等で上昇の見込みとなっている。
汎用樹脂の出荷は、前月比は、ユーザー側の稼働日数の増加も相まって、LDPE、PP、PS はプラス。HDPE のみはマイナスとなった。前年比では、フィルム等の一次加工製品を含めた輸入品の増加が続いており、包材分野を中心として出荷が減少した。
包材以外の分野でも、前年比で、LDPE、PS はほぼ全ての用途で出荷がマイナス。HDPE も総じてマイナスとなるも、パイプ分野のみはプラス。PP はこれまで前年並みの出荷を維持してきた射出成形分野の工業部品分野が当月はマイナスに転じたが、フラットヤーン、繊維分野に限ってはプラスにとどまった。

ハ）輸　　出
原油等の市況の上昇とともに、需要側では、到着玉の価格変動リスクの高まりもあり、買い付けの動きは鈍い状況。
前月比は LDPE、HDPE、PP、PS ともにマイナス。前年比でも LDPE、HDPE、PS がマイナスとなっている。

ニ）在　　庫
在庫量は、前月に対して、LDPE、PP、PS は減少、HDPE のみは増加した。在庫率(季節調整済)は LDPE、HDPE は上昇、PP、PS は低下した。
在庫水準は、LDPE、HDPE は高め、PP、PS は適正水準となっている。

	前月対比増減量（単位:トン）	季節調整済在庫率（単位:ヶ月）	
		９月末	１０月末
LDPE	▲　９，７００	３．５	３．６
HDPE	＋１５，１００	３．６	４．３
P　P	▲　９，４００	３．２	３．０
P　S	▲１１，４００	２．５	２．１

前月からの修正を*で付記

以　上